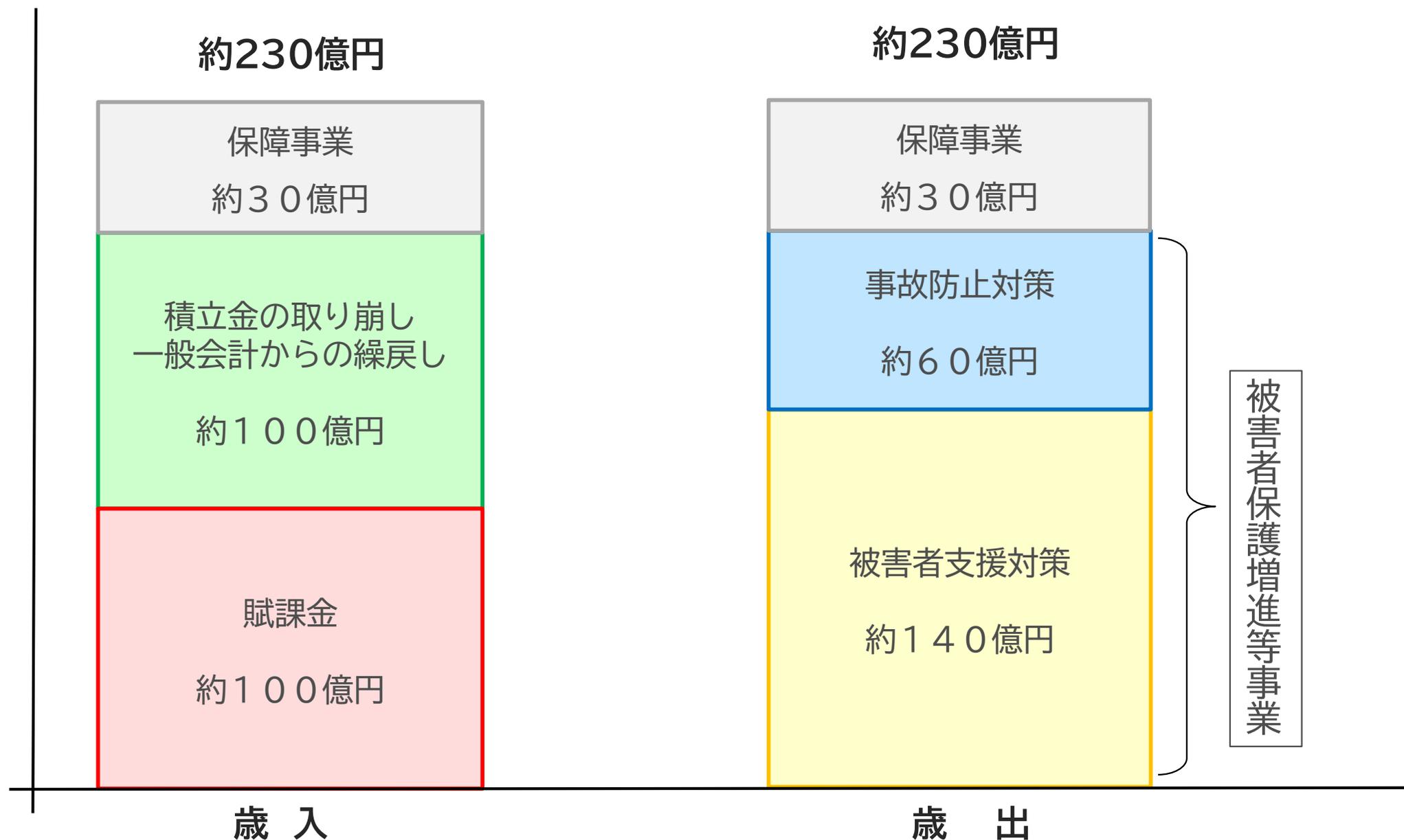


令和6年度予算要求 概要

令和5年12月8日

○自動車事故対策勘定の要求内容(イメージ)



●自動車事故対策勘定
 要求額:22,959百万円(22,404百万円)

概要

自動車事故により障害を負った被害者やその家族・遺族に向けた支援体制の整備等により、支援体制のさらなる充実を図る。
 (ア)千葉療護センターの機能強化 (イ)被害者支援体制の整備事業 (ウ)介護料の支給 (エ)被害者・遺族等団体の相談支援
 (オ)事故被害者へのアウトリーチ、ユーザー理解の促進

(ア)千葉療護センターの機能強化 新規 要求額:113百万円

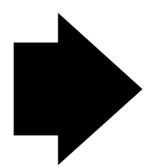
課題

千葉療護センターにおいては、

- 昭和59年の開設後40年が経過し老朽化が進行している、
- リハビリ機能等の充実が求められているものの、現環境では狭隘となっている。



老朽化の進む千葉療護センター(築38年)



千葉療護センターのリニューアルに向けて、被害者ニーズへの対応を踏まえた設計を進める。

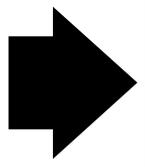
●千葉療護センターリニューアル予定

	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
工程	設計	設計	工事	工事	工事・開業

(イ)被害者支援体制等の整備事業 継続 要求額:1,356百万円(1,245百万円)

課題

- グループホーム、居宅介護事業所を開設する場合、開業に係る経費(人材確保に係る経費や介護機器等の導入等に要する経費)等のインシヤルコストの負担が大きく自己資金の確保が困難
- 介護人材の確保が困難
- 介護者なき後に至る前からの自宅以外(施設等)の利用経験の確保
- 高次脳機能障害の早期発見や地元での社会復帰



・グループホーム・居宅介護事業者等の新規開設に対する支援や、介護人材の確保等に対する支援を実施し、介護者なき後の生活の場の確保を推進。
 ・事故被害者の短期入院・短期入所を実施する病院・障害者施設等に対し医療器具・介護器具の導入経費等を支援することで、事故被害者の短期入院・短期入所の利用を促進。
 ・高次脳機能障害について自立訓練を提供する障害福祉サービス事業所に対し、訓練提供支援に係る経費等を補助することで、高次脳機能障害者の社会復帰を促進。

被害者等支援対策の充実②

(ウ) 介護料の支給等 継続 要求額: 4,108百万円(4,127百万円)

課題 ● 日常生活において抱える経済的負担の軽減が必要

障害の程度に応じて
日々の介護経費を支援



ナスバ職員による訪問支援

【介護料支給額】

- ・ 特I種：月額 85,310円～211,530円
- ・ I種：月額 72,990円～166,950円
- ・ II種：月額 36,500円～ 83,480円

※特I種：I種のうち、自力による移動や摂食ができない等の症状があるもの。
 I種：脳損傷、脊髄損傷及び胸腹部臓器損傷で常時介護を要するもの。
 II種：脳損傷、脊髄損傷及び胸腹部臓器損傷で随時介護を要するもの。

【介護料支給対象】

介護用品 介護用ベッド、消耗品(紙おむつ、導尿カテーテル等) 等

介護サービス ホームヘルプ、訪問入浴、訪問看護 等

合わせて、介護料受給者の家庭への訪問支援も実施

(エ) 被害者・遺族等団体の相談支援 継続 要求額: 180百万円(180百万円)

課題 ● 深夜にも及ぶ被害者・遺族等からの相談にボランティアで対応する被害者・遺族等団体への大きな負担



被害者・遺族団体による相談窓口の構築・継続を支援し、被害者等の精神的負担の軽減を促進。

(オ) 事故被害者へのアウトリーチ、ユーザー理解の促進 継続 要求額: 200百万円(675百万円)

課題 ● 自賠制度の認知度の向上
 ● 自賠法改正に伴う賦課金の使途拡大に係るユーザー理解促進

令和4年の自賠法改正における衆参両院における附帯決議や被害者へのアウトリーチ強化が求められていることを踏まえ、自動車事故被害者への被害者等支援制度の周知に関する広報事業に取り組む。

※アウトリーチとは・・・「被害者ノート」等の情報提供ツールを活用し、支援を要する事故被害者に必要な情報を確実に届ける取組み。

・上掲のほか、障害の態様に応じた被害者支援の充実・改善に係る調査・研究にも取組み、効果的な施策実施に取り組む。

概要

- 自動車による痛ましい事故の被害者を一人でも減らすため、自動車事故発生防止に資する事業のさらなる充実・強化を図る。
- (ア)自動車運送事業の安全総合対策事業(イ)自動車アセスメント事業(ウ)自動車事故発生防止事業のさらなる充実・強化

(ア)自動車運送事業の安全総合対策事業

継続

要求額:1,329百万円(1,334百万円)

- 先進安全自動車(ASV)の普及を促進し、事故の削減を図るため、自動車運送事業者に対して、対象装置搭載車と非搭載車の差額補助(1/2)を実施。
- 過労運転防止に資する機器の導入や、高度な運行管理を実現するための機器(デジタル式運行記録計・ドライブレコーダー等)の導入支援を実施。
- このほか、ドライブレコーダー等を活用した安全運転教育に係る支援を行うことで、事業者の安全意識の向上を図る。



事故自動通報システム

ドライブレコーダー

(イ)自動車アセスメント事業

継続

要求額:9,875百万円の内数(9,398百万円の内数)

- 自動車ユーザーが安全性の高い自動車等を選択しやすい環境を整備するとともに、メーカーに対してより安全な製品の開発を促すため、自動車等の安全性能評価(自動車アセスメント)を実施。

1. 評価試験の実施

衝突試験、自動ブレーキ試験など、様々な安全性能を評価

衝突安全性能評価(7項目)



ルーフ°前面衝突 側面衝突 等

予防安全性能評価(8項目)



パダル踏み間違い加速抑制 自動ブレーキ 等

事故自動通報



2. 結果の公表

結果を車種ごとに点数化して公表。



メーカー:トヨタ
車種:ヴォクシー/ノア

『自動車安全性能2022』ファイブスター大賞受賞

(ウ)自動車事故発生防止事業のさらなる充実・強化

継続

拡充

新規

- 上掲のほか、先進安全自動車の整備環境の確保、事業用自動車の重大事故に関する事故調査等の強化、貸切バスや軽貨物自動車等に係る自動車運送事業の安全対策、高齢運転者等の事故防止対策等の事業を実施し、事故防止・安全対策を推進する。